令和元年11月1日

さい議会だより

No.187

電源開発株式会社東日本支店「南川越変電所」を視察（9月25日）　【関連記事17ページ】

9月定例会の主な内容

☆ 平成３０年度決算審査報告　・・・・・・・・・・・・・　4ページ
☆ 一般質問に４名登壇　・・・・・・・・・・・・・・・　8～15ページ
☆ 夜間議会を開催　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　16ページ
☆ シリーズ「恵まれた１０４年間」　・・・・・・・・・・　18ページ

発行：佐井村議会　編集：議会広報編集委員会　〒039-4711　青森県下北郡佐井村大字佐井字糠森20　TEL0175-38-2111　FAX0175-38-2492

令和元年第３回定例会は、９月３日から６日までの４日間の会期で行われました。
村長から報告３件・認定６件・補正予算案４件・条例案２件・同意１件の計１６件、議員から条例案１件が提出され、それぞれ原案どおり決しました。

平成30年度の決算状況

会　　計		歳入総額	歳出総額	歳入歳出差引額	うち基金へ積立てた額
一　　般		23 億 9192 万円	23 億 1845 万円	7346 万円	3030 万円
特別会計	簡易水道事業	7216 万円	7216 万円	0 円	0 円
	下水道事業	1 億 4979 万円	1 億 4979 万円	0 円	0 円
	国民健康保険	3 億 3850 万円	3 億 2671 万円	1179 万円	589 万円
	介護保険	3 億 2524 万円	3 億 2524 万円	0 円	0 円
	後期高齢者医療	2530 万円	2359 万円	170 万円	0 円
合　　計		**33 億　294 万円**	**32 億 1597 万円**	**8696 万円**	**3620 万円**
平成 29 年度		37 億 4362 万円	36 億 7617 万円	6744 万円	3372 万円

※単位未満の金額を省略して表記しています。ご了承ください。

平成30年度※普通会計の状況

※全国の地方公共団体の財政比較のための共通基準による統計上の会計区分

一般会計の決算額は、平成 29 年度と比較すると、歳入が 3 億 9137 万 9 千円（14.1 パーセント）の減額、歳出が 4 億 1248 万 9 千円（15.1 パーセント）の減額となった。
歳入歳出差引額（形式収支）は 7346 万 6 千円の黒字となり、翌年度に繰り越すべき財源 1286 万 1 千円を控除した実質収支額は 6060 万 5 千円となる。

※地方公共団体の財政は、営利を目的とした会社などとは違い、黒字の額が大きいほど良いというものではありません。黒字の額は、標準的な状態の 3.0～5.0%が望ましいとされており、佐井村の平成 30 年度の実質収支比率は 4.0%となりました。

平成30年度一般会計 黒字決算
財政運営は順調か

坂井議員
平成30年度一般会計は約6060万円の黒字となり、財政構造においても改善傾向にあるとの報告がされた。これは財政運営が順調であると理解して良いのか。

行財政改革に努める

村　長
黒字決算となったものの、地方交付税の減額が見込まれるなど、予断を許さない状況にある。引き続き、行財政改革に努めていく。

5年前と比較しどう思うか

坂井議員
依存財源の割合が大きい中でも黒字決算が続いている。5年前の就任当時と比べ、村長は財政状況をどう認識しているか。

変わらず厳しい

村　長
就任当時と変わらない厳しさを認識している。しかし、日本で最も美しい村連合への加盟により、協働のむらづくりの機運が醸成され、これまでの行政に依存した体制・体質が変わると考えている。住民の理解を得ながら、行財政運営に当たりたい。

地区の要望に応えるべき

坂井議員
財政状況が改善傾向にあるとすれば、保留になっている地区要望に優先順位を付け、積極的に取り組み、成果を上げるべきではないか。

定期的に対応する

村　長
限られた財源を効率的に使い、的確に、定期的に一つ一つ応えていく必要があると考えている。

工事の要望がある原田腰掛八幡宮下の法面

平成30年度一般会計歳入歳出決算
経常経費の抑制は

太田議員
電源立地地域対策交付金や地方交付税が減額傾向にある中、経常的な経費の抑制にどう取り組むのか。

強い姿勢で取り組む

村　長
事務事業の見直しなど、強い姿勢で取り組む。

施設より福祉重視すべき

太田議員
公共施設の補修や教員住宅の新築より、高齢者や児童の福祉に重点を置くべきではないか。

生活基盤の整備も重要

村　長
生活基盤や環境整備のうえに福祉が成り立つものと考えている。

さいクリニックの隣に新築された教員住宅

中身の充実も図るべき

太田議員
重要性は認識しているが、建物などの整備とともに人材育成等、中身の充実を図るべきではないか。

より良い方向性を見出したい

村　長
村の財政は将来的に困難な時代を迎えることと思うが、議員はじめ住民の皆さんと議論し、より良い方向に持っていきたい。

平成30年度決算審査報告
健全性は保たれている

佐井村代表監査委員　奥本　紀

平成30年度佐井村一般会計、各特別会計について、8月7日から9日の3日間にわたり慎重に審査を行なった。

歳入は地方交付税に大きく依存しているが、財政の基本をなす村税の収納事務をさらに充実・強化し、滞納者を1人でも多く解消し、新規の滞納者を出さないことを念頭に未納者に対する納付督促、差し押え等の強制処分を強化し、収納率の向上に一層努めること。

奨学資金の滞納は依然として高い水準にあるものの、滞納繰越分が112万1千円削減されている。引き続き借入本人をはじめ保証人等に対して適時・適切に督促を行い未納額の解消に励むこと。

また、貸付金についても、固定化されている収入未済額の減少に努めること。

歳出においては、より一層経費の節減に努め、最小で最大の効果を上げるという財政の基本原則を確認し、限られた予算を効率的・効果的に活用することを望む。

平成30年度健全化判断比率については、赤字が存在せず、実質公債費比率については8・9パーセントと早期健全化基準を下回っている。将来負担比率は生じておらず、財政の健全性は保たれていると判断できる。また、簡易水道及び下水道事業特別会計に係る資金不足もないことから、経営の健全性も保たれていると判断できる。

今後においてもなお一層、財政健全化及び経営健全化に向けた諸般の取り組みをしていただきたい。

決算審査報告を行なう
奥本代表監査委員

議員提案による条例改正

12月の期末手当を5％減額

○提案理由

平成30年度一般会計における歳入決算額は、自主財源が19・9パーセントとなっており、依然として地方交付税などの財源に大きく依存している状況にある。

このような財政状況では、将来に不安を残す可能性があることから、議員自ら経費の削減を行ない、少しでも歳出の抑制を図るため、12月に支給される期末手当について、加算率を適用せず、さらに支給額の5パーセントを減額することを提案する。

○採　決

全会一致で可決。

【改正の内容】

「佐井村議会の議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例」により、議員には、6月と12月に期末手当が支給されます。手当の額は、報酬月額に100分の20を超えない範囲で村長が定める割合（加算率）を乗じた額に100分の160を乗じた額とされています。

財政状況の悪化を理由に、議員はじめ村長等は加算率を適用しないこととしてきました。

今回、さらに支給すべき額の5パーセントを減額する条例改正を行なうことにより、合計で14万円ほどの減額となります。

議　長	43万　400円	↓	40万8880円
副議長	35万8400円	↓	34万　480円
議　員	34万2400円	↓	32万5280円

審議した主な議案

○佐井村印鑑の登録及び証明に関する条例の一部を改正する条例

住民基本台帳法施行令等の一部を改正する政令に基づき、所要の整備を行なうもの。

・印鑑証明書への旧氏併記　など

○佐井村森林環境基金条例

森林環境税及び森林環境譲与税に関する法律の施行に伴い、「森林環境譲与税」を基金として積み立て、森林環境整備及び木材利用の普及啓発等の実施に必要な経費の財源に充てるための条例。

森林整備の主な効果

再任　教育委員会 委員　岡本良夫さん

佐井村教育委員会委員　岡本良夫氏の任期が、令和元年10月27日で満了することから、同氏を再任することに、全会一致で同意しました。

岡本良夫さん（大佐井）

佐井村教育委員会

教育長	祐川　俊樹	（令和2年1月19日まで）
委員	宮川　由実子	（令和2年12月19日まで）
委員	坂井　一尚	（令和3年12月26日まで）
委員	田中　幸恵	（令和4年12月21日まで）
委員	岡本　良夫	（令和5年10月27日まで）

令和元年度補正予算の概要

会計		補正前	補正額	計
一般会計		25億157万6千円	2764万0千円	25億2921万6千円
		○シィラインへの補助金の増額	1355万3千円	
		○介護保険特別会計への繰出金の増額	300万8千円	
		○除雪車整備事業の見送りなどによる減額	▲1502万5千円	
		○消火栓の設備の整備費（新規）など	1176万0千円　など	
特別会計	国民健康保険	3億125万3千円	2653万1千円	3億2778万4千円
		○保険給付費などの増額		
	介護保険	3億1779万8千円	353万1千円	3億2132万9千円
		○償還金などの増額		
	後期高齢者医療	2647万2千円	265万8千円	2913万0千円
		○後期高齢者医療広域連合納付金の増額		

一般会計補正予算

観光客減少によるダメージ

観光政策に問題は

竹内典和委員　アルサス内のテナント料引き下げによる指定管理委託料が374万円増額計上されている。

各店舗は観光客等の利用者減少によって困窮しているというが、村の観光事業、観光施策に問題があるのではないか。

店舗としての努力も必要

村　長　観光客の減少がアルサス内のテナントに影響を及ぼしているとは思うが、各店舗でも誘客を図る企画をするなどの努力が足りないのではないかとも考えている。

※佐井村観光協会調べ。平成31年（令和元年）は9月まで集計。

観光客の増加を図るべき

竹内典和委員　アルサス周辺では、環境整備や賑わいづくりの事業を展開してきたが、売り上げの増加にはつながっていないようだ。

村が積極的に介入し、観光客の増加を図るべきではないか。

関係団体と意見を交わす

村　長　アルサス活性化協議会、商工会や観光協会等の関係団体と懇談し、意見交換できる場を設けたい。

海外からの観光客誘客すべき

竹内典和委員　青森県は全国的に見ても外国人観光客が増加傾向にあるが、村内ではほとんど見掛けない。

外国人の誘客にも力を入れるべきと考えるが。

体制を整える

村　長　旅行業者や関係者と協議し、誘客に向けた体制を整えていく。

臨時議会を開催

10月3日（木）、令和元年度第3回臨時会を開催し、村長から提案された3議案はすべて全会一致で可決しました。

○一般会計補正予算

保育無償化に伴い、国の制度で保護者負担となっている副食費を村が負担することにより、保護者の負担軽減を図るための関係経費43万2千円の増額など。

成長に合わせた食事を提供
（佐井村保育所）

○簡易水道事業特別会計補正予算

先般の水不足の一因でもある漏水の解消に向け、工事費147万4千円を増額。

○佐井村簡易水道事業中央監視装置更新工事請負契約の締結

役場中央監視装置と矢越配水場の装置の入れ換え工事を実施する。

契約金額　5830万円
契約業者　三光テクノ株式会社青森営業所
契約期間　令和2年3月6日まで

平成30年度一般会計歳入歳出決算

指定管理業務委託

当初の目的を果たしているか

竹内典和委員

指定管理を導入している各施設において、施設及び地域活性化のための自主事業がなされていないように感じる。村の適切な指導が求められると考えるが。

積極的に指導する

村　長

指定管理を導入した目的は、民間の活力による施設の活性化を進めることであった。近年、マンネリ化しているように感じる部分もあるため、積極的な指導体制を取るべきと考えている。

施設に適した業者選定を

竹内典和委員

昨年視察したつがる市では、指定管理者による自立した施設運営がなされていた。今後、施設に適した業者選定が必要ではないか。

提案の内容を重視する

村　長

指定管理料が安いことは重視せず、より提案内容を重視した選定を行ないたい。

「歌舞伎の館」で開催された福浦地区春祭り（平成31年4月10日）

佐井村・西目屋村の小学生交流事業が行なわれた「願掛公園野営場」（令和元年7月30日～31日）

指定管理施設一覧

佐井村保育所	社会福祉法人吉幸会	**令和２年３月まで**（5年間）
津軽海峡文化館「アルサス」	佐井定期観光株式会社	令和４年３月まで（5年間）
願掛公園野営場（ケビンハウス）	特定非営利活動法人ゆいっこクラブ	令和４年３月まで（5年間）
フォーレストパーク（森林体験館）	株式会社サンアメニティ東北	令和４年３月まで（5年間）
高齢者生活福祉センター「あすなろ」	社会福祉法人佐井村社会福祉協議会	令和５年３月まで（5年間）
佐井村斎場「蓮精苑」	株式会社サンアメニティ東北	令和５年３月まで（5年間）
佐井村きのこ生産集出荷施設	佐井村森友会	令和６年３月まで（5年間）
原田地区生活改善センター	原田地区会	令和４年３月まで（3年間）
川目地区生活改善センター	川目地区会	**令和２年３月まで**（3年間）
矢越地区生活改善センター	矢越地区会	令和４年３月まで（3年間）
磯谷地区漁民研修センター	磯谷地区会	**令和２年３月まで**（3年間）
長後地区生活改善センター	長後地区会	**令和２年３月まで**（3年間）
歌舞伎の館	福浦地区会	**令和２年３月まで**（3年間）
牛滝地区交流促進センター	牛滝地区会	**令和２年３月まで**（3年間）

太田直樹議員

佐井小学校・佐井中学校の昼食 完全給食を実施すべき

村長 ― 様々な検討が必要

太田議員

青森県が短命県となっている要因の一つに、塩分や油分の取り過ぎがある。義務教育の9年間、塩分や油分が管理された食事をとることで、家庭での食事に対する意識の改善、子供の肥満解消が期待できる。

保護者の仕事環境の変化やバス通学などのため、以前より家庭での弁当づくりの負担が増している。

食材を地元から購入することで、地産地消などの経済効果が期待できる。

以上の理由から、佐井小・佐井中学校で完全給食を実施できないか。

食生活改善推進員によるみそ汁の塩分濃度測定
自分のみそ汁の数値を見て驚く方も多い

給食センター建設は難しい

村長

子供の数が減少傾向にあるため、給食センターの整備には大きなリスクを伴う。

複合的な利用は

太田議員

給食センターを北通り3町村で整備すれば、村の負担は軽減する。また、学校給食だけではなく、地域の高齢者への配食サービスなど、複合的な利用も想定できないか。

配送に基準以上の時間を要する

村長

以前、北通り3町村の給食についてシミュレーションを行なったが、学校給食衛生管理基準による学校までの配送時間をクリアできないなどの課題があり、具体的な検討に入れなかった。

高齢者への配食サービスも含め、様々な角度からの検討が必要と思われる。

既存施設の活用は

太田議員

現在の保育所児童、小学生、中学生は約120人。5年後には約60人になると見込まれている。

少人数だからこそ、既存の施設を活用するなどの方法で実施できないか。

定員以上は対応できない

村長

村内の老人福祉施設や保育所の調理室は、その定員に即した設備となっており、昼食時に定員以上の調理を行なうスペースは確保できないと思われる。

5年後に向けた準備を

太田議員

60人ほどの児童生徒及び教職員の給食に係る費用を積算し、実施に向けた準備をすることはできないか。

推計をもとに対応したい

村長

将来に向けた推計を立てながら、対応していきたい。

みんなで食べるとおいしいよ！
（佐井村保育所給食の様子）

国民健康保険「保険者支援制度」
健康施策を充実させよ
村長 ― 医療費抑制に向けた事業に努める

太田議員　国民健康保険「保険者努力支援制度」による村への交付額は。

総額は約83万円

村　長　平成30年度の交付総額は83万3千円。被保険者1人当たり3149円であった。

交付金の使途は

太田議員　交付金の使途は。

村　長　医療費抑制のため、保健指導の強化や健康づくり事業に充当する。

健康づくり事業に充当する

食事指導や運動指導を実施

住民福祉課副参事　生活習慣病予防のための食事や運動の指導、健診の重要性を説明するなどの事業を実施している。

誰でも参加できる体や健康に関するクイズラリー
ヘルスアップ in 佐井（令和元年10月19日）

深刻な水不足問題
対応が遅かったのでは
村長 ― 危機管理が不十分だった

太田議員　7月の水不足は、どれほど深刻だったのか。

対象世帯の5時間分まで低下

村　長　古佐井山浄水場では原田～磯谷地区の2日分に相当する1400トンを貯水しているが、7月23日には160トン、約5時間分の貯水量まで低下した。

4日前から水位が低下か

太田議員　4日前から水位の低下があったそうだが。

降雨を期待していた

産業建設課長　降雨も予想したが、期待した雨量ではなかったため、急きょ節水を呼び掛けることとした。

対応を今一度確認する

村　長　危機管理が不十分であったと感じている。今一度マニュアルを確認する。

近隣町村との連携は

太田議員　非常時に近隣市町村と連携する計画は。

応援協定を締結している

村　長　応援協定により、近隣からの機材や人員の派遣を受けられることとなっている。

平成26年11月、むつ市川内町で発生した大規模な断水の際、当村の給水タンク2基を貸し出した実績がある。

我々が協力できることは

太田議員　日頃、住民が協力できることはあるか。

節水を心掛けてほしい

村　長　常に節水を心掛け、漏水が判明した場合は速やかに修理していただきたい。

竹内典和議員

野生鳥獣による農作物被害
農家の要望に応えた対策を
村長 ― 近隣市町村と連携し、要望活動を継続する

竹内典和議員
野生鳥獣による農作物被害について、サル、クマの対策はある程度の成果を上げている。
カモシカによる被害の実態を把握し、対策を取っているか。

年間被害額は20万円以上

村長
平成29年度は約21万円、平成30年度は約27万円の被害報告がある。
国庫補助金を活用し、平成7年度から畑に電気柵を設置し対策している。

畑に野生鳥獣が侵入しないよう設置された電気柵
漏電などの不具合箇所は補修が行なわれている

被害内容の確認は

竹内典和議員
農家の方に被害の内容を確認しているか。

アンケートや聞き取りを実施

産業建設課長
アンケートを実施したり、直接お話を伺ったりしている。

電気柵の設置計画は

竹内典和議員
電気柵の設置は、何年計画か。

現在の計画は令和4年度まで

村長
現在の計画は令和4年度までであるが、1年間延長したいと考えている。

進捗状況は

竹内典和議員
平成7年度から実施した電気柵の設置は、どの程度進んでいるのか。

総延長は約2万メートル

産業建設課長
福浦～原田地区の総延長は約2万メートルとなっている。

産業建設課長は総延長を8万メートルと答弁したが、2万メートル（20キロメートル）に訂正。

ジビエの導入は

竹内典和議員
被害防止のためにビニールハウスやネットハウスを設置する農家もあると聞くが、全国的にはジビエを取り入れているようだ。農家の要望に応えた様々な対策が必要ではないか。

安定的な供給ができない

村長
カモシカは国の特別天然記念物のため、狩猟できない。また、クマなどの野生鳥獣を安定して供給できるような状況にないため、導入は難しい。

早急な対応を

竹内典和議員
野生鳥獣による農作物の被害は農業者の営農意欲減退につながり、耕作放棄地が拡大するなど、地域に深刻な影響を及ぼしている。
予算を増額してでも、早急な対策が必要ではないか。

県や国に要望していく

村長
近隣市町村と連携し、これまで同様、期成同盟会や町村会を通して県や国に対策を要望していく。

新たな「森林環境譲与税」
佐井村には不利な制度では
村長 ― 同様の自治体と協力し、国に要望する

竹内典和議員
森林の荒廃や林業の担い手不足の支援に対し、総務省から森林環境譲与税が配分されている。
村の配分額は。

２３０万円交付の見込み

村　長
令和元年度は２３０万円の見込みである。

事業の計画は

竹内典和議員
譲与税を活用した事業の計画はあるか。

今後策定する

村　長
今年度は住民の意向調査、森林台帳システムの改修、基金への積み立てを予定している。
意向調査の結果に基づき、今後計画を策定する。

小規模自治体には不利な制度

竹内典和議員
横浜市や浜松市など、人口の多い自治体への配分が大きいため、森林面積が多くても人口の少ない当村のような自治体には不利な制度ではないか。

制度の変更を国に要望する

村　長
制度に不満を持つ自治体が力を合わせ、制度の変更を国に強く要望していく。

手入れがされていない林地は多くある

高齢者の自動車事故防止
装置取付けに助成を
村長 ― 導入に向け、検討する

竹内典和議員
高齢者による自動車事故が増加している。特に、ブレーキとアクセルの踏み間違いによるものが多いというが、急発進を防ぐ装置を取り付ければ予防できると聞く。
約20万円の取付け費用を助成し、普及すべきではないか。

費用等の調査が必要

村　長
助成に必要な費用の積算及びニーズ等の調査が必要と考える。

高齢者が新車購入は難しい

竹内典和議員
高齢者が装置の付いた新車を購入することは難しいが、助成があれば所有している車に付けることもできるのではないか。

助成の必要性は認識している

村　長
助成の必要性を認識し、導入に向けた検討を進めたい。

すぐにでも実施すべき

竹内典和議員
村長が必要性を認識するのであれば、すぐにでも実施すべきではないか。

条件を精査する

村　長
財源や助成の条件を精査しないまま、実施するとは明言できない。

70歳以上の運転者は表示が必要

根岸浩則議員

美しい村づくり関連事業
住民目線の「美しい村」を
村長 ― 協働のむらづくりを目指す

根岸議員
クラフトビール醸造に係るホップの試験栽培の結果と、今後の事業展開は。

商品化を目指す

村長
植え付けした5種類のうちマグナムという品種を720グラム収穫し、残る4種は9月の収穫を予定している。
収穫したホップは委託醸造先へ搬入し、12月には試作品が完成する予定である。
今後、試飲会で風味や味を決め、栽培する品種を選定し、栽培面積を増やすなどして商品化に向けた作業を進める。

試験的に栽培されたホップの収穫作業
（中道地区：令和元年８月24日）

事業主体は

根岸議員
ホップの栽培及びビール醸造に係る事業主体は。

当面プロジェクトチームが主体

村長
当面の間はプロジェクトチームが主体となり、耕作面積、生産量や労働力を検討していく。

ホップ栽培の目的は

根岸議員
ホップ栽培の目的は、経済的自立のための産業開発か、耕作放棄地を再生し景観を作り上げていくことか。

産業開発と景観づくり

村長
まち・ひと・しごと総合戦略にあるとおり、生業づくりに結び付けたい。
また、産業開発だけではなく、景観づくりの狙いもある。

各地区の公園再開発の計画は

根岸議員
これまで各地区で整備された公園や広場には、決して美しいとは言い難い現状がある。
美しい村づくりを住民が身近に感じることができるよう、これらの公園や広場を再開発する計画はないか。

管理体制を整えたい

村長
整備されていない公園や広場があることは把握している。整備は村、管理は各地区で行なう体制を整えたい。
私が日本で最も美しい村連合への加盟を決意したのは、平成19年に制定した佐井村むらづくり基本条例が住民に浸透していないことに危機感を持

木製のベンチも崩れ草に覆われている
（矢越地区健康広場）

ＮＰＯ法人「日本で最も美しい村」連合の活動

1　「日本で最も美しい村」の経済的価値を高め、社会発展を促す
2　地域の魅力を発信し、交流人口の増加による地域経済の発展を推進する
3　地域資源の存在や発展のための事業
4　連合サポーター企業による特産品開発や加盟町村の活動支援
5　テレビ、新聞、雑誌、インターネットなどによる情報発信

加盟の条件

◆人口がおおむね１万人以下であること
◆地域資源が２つ以上あること
　①景観：生活の営みにより作られた景観（伝統的なまちなみや里山・里海）
　②文化：昔ながらの祭りや芸能、郷土文化など
◆連合が評価する地域資源を活かす活動があること
　①美しい景観に配慮したまちづくりを行なっている
　②住民による工夫した地域活動を行なっている
　③地域特有の工芸品や生活様式を頑なに守っている

佐井村は
2016年（平成28年）
10月に加盟

「美しい村」として登録された佐井村の地域資源

仏ヶ浦の眺望と生活の営みにより形成された漁村風景

福浦の漁村歌舞伎

ったこと、加盟を契機として官民協働のむらづくりの意識を住民一人ひとりに持っていただきたいと考えたからである。

景観を保全すべき

根岸議員　近年、村内に風力や太陽光発電の施設等の乱立が見受けられる。ゴミの問題も含め、より建設的なルール、景観保護を目的としたガイドラインや条例などの整備が必要ではないか。

条例化の必要はない

村　長　村内には歴史遺産や文化遺産がないため、基本的には条例化の必要はないと考える。

しかし、日本で最も美しい村連合への加盟の際、ガードレールの色を茶色に統一することが望ましいなどの意見が審査委員から出されている。また、アクション19で「漁村風景を磨くために村の色を決める」とあり、漁村ならではの美しさを磨くという発想から、今後検討していく。

美しい村連合加盟は継続か

根岸議員　日本で最も美しい村連合の加盟には、５年ごとの審査がある。現在３年目を迎えているが、２年後には審査を受け、加盟を継続するのか。

継続したい

村　長　再審査にあたり、課題はあるものの連合本部からある程度の評価はいただいている。

２年後も継続した加盟が承認され、28のアクションプランも順調に進んでいくことに期待を寄せている。

海岸沿いに建設された風力発電施設と電線
（中道地区高磯）

川畑勲夫議員

旧磯谷小中学校 今後の利活用計画は

村長 ― 村の考えをもとに説明会を実施する

利用がなく、草が生えた旧磯谷小中学校グラウンド

川畑議員
平成18年3月末で閉校した旧磯谷小中学校は、4月以降も磯谷地区の避難所に指定されている。
今後の活用計画はあるのか。

一部を解体したい

村長
閉校後、平成23年3月の東日本大震災の際、避難所として利用された。
しかし、閉校から13年が経過し、このままでの活用は難しい状況にあるため、講堂と中学校校舎を解体し、小学校の一部を避難所として残したいと考えている。

改修の計画は

川畑議員
小学校校舎の屋根も腐食が進んでいるが、改修の計画はあるか。

経費により判断する

村長
改修に要する経費を算定し、判断する。
仮に改修を行なわずに全部を解体することになった場合は、避難所の指定について地区と協議する。

磯谷地区との協議は

川畑議員
これまで、地区との協議はなされたか。

解体の希望もある

村長
閉校に際し、校舎や校庭の利活用について協議がなされたが、記録が残っていない。また、平成28年5月、磯谷地区での村づくり懇談会において解体に向けた意見が出されたが、具体的な協議はされていない。
村の方針が固まり次第、地区への説明会等を実施する。

防災訓練で磯谷地区防災公園へ避難してきた住民
周辺に神社はあるが防災施設はない（平成22年）

道路ストック総点検
結果に基づき計画的な修繕を
村長 ― 今後、計画を策定する

川畑議員　村道は3種類に区分されているが、その違いは。

戸数などにより認定している

村　長　主要集落（50戸以上）や公共施設を連絡する道路が1級村道。

25戸以上の集落、国道・県道・1級村道を連絡する道路が2級村道。

それ以外がその他の村道となる。

改修の計画は

川畑議員　62路線の総点検の結果、「修繕が必要」が8路線、「修繕を行なうことが望ましい」が5路線あった。

この13路線の改修計画は。

現在はほかの事業を優先

村　長　現在、村では橋梁の長寿命化事業を優先している。

交付金を活用した修繕を行なう場合は計画が必要になるため、今後策定する予定である。

上道線工事に不安の声

川畑議員　（矢越地区）上道線はこの13路線に含まれるが、現在一部修繕が実施されている。

共同墓地へ続く階段の簡易な補修がなされているが、抜本的な修繕を望む住民からは計画がないことに不安の声がある。

工法を変更する

村　長　以前、墓参りのためにこの階段を利用した方が転んでけがをしたと伺っている。

コンクリートの劣化が見られたため、取り急ぎ階段の踏面の補修を予定していたが、不安の声があったため、地区と協議したうえで工法を変更して実施する。

補修工事が行なわれている矢越共同墓地への階段

改修を優先する路線は

川畑議員　改修計画策定にあたり、優先する路線の条件は。

状況により判断する

村　長　点検結果、対策時期や工法により判断する。

ほかに修繕する路線は

川畑議員　この13路線のほかに、早期に修繕が必要な路線はないか。

ほかにはない

村　長　早期に修繕を要する路線はない。軽微な補修には、順次対応している。

大佐井川添線は

川畑議員　大佐井川添線、水管橋付近の護岸の路面が下がっているようだが。

現地を調査する

村　長　早速、現地を調査する。

劣化が見られる大佐井川護岸
（大佐井川添線）

夜間議会を開催

９月定例会１日目、９月３日（火）午後６時から夜間議会を開催し、４議員による一般質問を行いました。

佐井村地区連合会（七戸宗徳会長）のみなさんをはじめ、合わせて32人のみなさんに傍聴していただきました。

次回定例会は、12月上旬に開催予定です。日程が決まり次第ホームページ等でお知らせしますが、詳しくは議会事務局へお問合せください。

みなさんの議会傍聴をお待ちしています。

現場視察

さいクリニック 外構工事・教員住宅を視察

９月４日（水）、さいクリニックを視察しました。

大竹進院長から、クリニックの設備に関する説明と、患者の状況を伺いました。

また、クリニック建設に伴い村が実施した外構の状況と、隣接する２棟の教員住宅についても、担当課長等からの説明を受けました。

レポート

安定した電気を供給

派遣議員代表　議員　根岸浩則

9月25日、電源開発㈱東日本支店を視察した。

まず、J-POWER（電源開発㈱）の概要として、国内事業では石炭火力発電は国内最大規模、水力・風力発電所は全国2位の規模であること。電力会社別の設備規模は東京電力が6千万キロワット超で最も大きく、J-POWERは1765万キロワットで6位の規模となっている。大間原子力発電所がJ-POWERで初の原子力発電所として稼働すれば、さらに規模は大きくなるとの説明を受けた。

次に、川越地区にある東地域制御所について、東日本地域にあるJ-POWERの水力発電所、変電所、送電線を常時（24時間体制）監視、運転しているとの説明を受け、南川越変電所を視察した。

南川越変電所では、発電所から送られてくる50万から27万5千ボルトという高い電圧を下げる役割を担っており、一次変電所で、27万5千ボルトから15万4千ボルトに変換しているという。なお、落雷などの事故時には異常個所を切り離し、大停電が起きるのを防ぐ機能を有しているとの説明もあった。

電源開発株式会社の国内外での電力供給への取り組みと規模、各家庭まで電気を送り届けるといった一連の設備に対し、理解が深まる有意義な視察となった。

電源開発㈱東日本支店の変電設備
（埼玉県川越市）

レポート

さらなる安全性を目指して

大間原子力発電所対策特別委員会　委員長　竹内典和

9月26日、原子力発電所等先進地視察研修のため、島根原子力発電所を視察した。

島根原子力発電所は全国で唯一の県庁所在地にある発電所であり、松江市は人口20万人を超える中核都市である。

島根原子力発電所3号機はですでに完成しており、2011年12月に稼働開始の予定であったが、同年3月の福島第一原子力発電所の事故を受け、新しい規制基準が制定されたため、2018年8月に新規制基準に基づいた適合性審査を国へ申請している。

2号機、3号機が稼働すると200万キロワットであり、その他の火力発電等と合わせて400万キロワットの電源になる。ピーク時には1千万キロワットの電気を使っているため、中国エリア全体の4割程度を島根県から供給する予定である。

3号機は、大間原子力発電所と同じABWR（改良型沸騰水型）を採用しており、原子炉格納容器は低重心で機密性、強度が強いものに変わっている。中央制御室も沸騰水型では初めてであるフルデジタルを採用しているとのことであった。

福島の事故を教訓に各電力会社は、津波の対策、電源及び冷却装置の多様化を進めている。

島根原子力発電所は、国の定めた規制基準に満足するだけでなく、さらなる安全性向上を目指している。小さな確率でも事故は起こるものという前提で安全対策工事を進めるほか、緊急時の対応訓練等を行っているとのことであった。

島根原子力発電所を視察
（島根県松江市）

昭和・平成・令和をつなぐ

佐賀すゑさん（104歳）　大佐井

「ずっと恵まれてきた」

8月5日で104歳を迎えられた、佐賀すゑさんにお話を伺いました。

大正4年、大間町材木で生まれたすゑさんは、男5人、女3人の8人兄妹。3世代、結婚した兄の家族も同居する大家族で、仲よくにぎやかに暮らしていたそうです。

若い頃は、青森市内で裁縫の先生をしていた伯母のもとで、ご飯の支度や掃除などの手伝いをしながら、生徒と一緒に裁縫を習っていました。伯母は、女中と同じ仕事をしてくれるからと給金をくれ、かわいがってくれました。

楽しく生活していた25歳の時、急に大事な用があると実家に呼び戻されると、そのまま結婚することになったそうです。結婚相手は祖母の知り合いで、祖母がとても気に入っていた正次郎さんでした。

嫁いだ先は漁師の家。また、ちょうど原田の辺りを開墾していた時代だったので、周囲の人は3日と持たないのではないかと心配したそうですが、外の仕事はこういうものなのだろうと思い、励んだそうです。

裁縫をしていた時は女性の着る物を多く仕立て、若い娘さんがそれを着て奥戸や大間へ遊びに行ったとか。特に袖なしは重宝し、材料を持って作ってほしいと頼みに来る人も多かったそうです。

今でも裁縫をしたいという気持ちはあるのですが、力も弱くなり、できないのが残念だということですが、目は見えるので、テレビでドラマを見るのが楽しみだそうです。

最近のドラマは、鼻や口をすぐくっ付けるので好きではない。時代劇のように、昔ながらの夫婦を描いた作品が好きだと言います。

１０４歳をお祝いしていただきました

7年ほど前、骨折のため一時寝たきりになったことがありました。自宅で息子の妻に介護してもらっていましたが、負担が掛かったため、彼女も腰を骨折し、入院することになりました。そのため、4年前から「ゆうなぎの里」で生活することになったそうです。

施設では、家に居る時より気を遣う…とのことですが、みなさん親切にしてくれる。大事にしてもらえて、自分は恵まれている。この歳までずっと恵まれてきたと、笑顔で話してくれました。

金魚つりに挑戦！

クッキングクラブの活動

◆編集後記◆

秋も深まり、一気に寒さが増す11月。今年も残すところ2か月となりました。

さて、9月定例会では「夜間議会」を開催し、一般質問を行ないました。4人の議員が喫緊の課題や今後の事業への取り組みについて村長に質問しましたが、残暑厳しき折、傍聴においでくださった多くの皆様、遅くまでありがとうございました。

今後とも、議会へのご意見、議会だよりのご感想などをお寄せくださるよう、よろしくお願い申し上げます。（山口）

議会広報編集委員会
委員長　根岸浩則
副委員長　太田直樹
委員　山口捷夫
委員　川畑勲夫
委員　坂井文明